

平城宮跡資料館 令和4年度 春期特別展

平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年記念

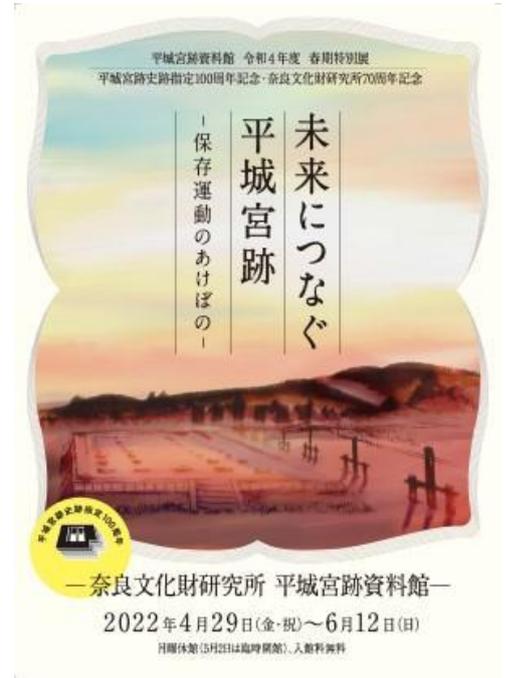
# 「未来につなぐ平城宮跡 — 保存運動のあけぼの —」

令和4年(2022)4月29日～6月12日開催 平城宮跡資料館 企画展示

遺跡のなかで歴史上・学術的に価値が高いものは「史跡」に指定されます。令和4年(2022)は平城宮跡がその「史跡」に指定されてから100年という節目の年にあたります。

平城宮は都が京都に遷って以降、長らく田畠になっていました。明治時代、その平城宮跡の保存運動を進めた人物としては、奈良の植木職であった棚田嘉十郎がよく知られています。ただし、保存運動の口火を切ったのは、地元である当時の都跡村の有志たちによる運動でした。

保存運動は、明治34年(1901)4月3日、第二次大極殿跡の土壇上に標木を建設したことにはじまります。近年、既に失われたと考えられていた当時の標木の一部と関係史資料が地元の旧家で発見されました。本展示では、この標木とその建設前後の活動を紹介するほか、その後の棚田嘉十郎や地元の溝辺文四郎たちによる熱心な保存運動、史跡指定、整備事業、発掘調査による地下遺構の発見など戦前から戦後にかけての平城宮跡をめぐる動きをご覧ください。様々な立場で平城宮跡の保存に関わった人々の熱い想いを感じて頂けると幸いです。



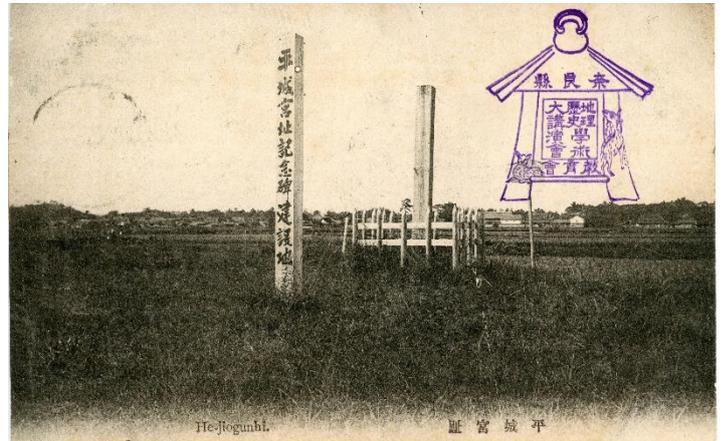
展示会のパンフレット



## 大極殿跡 明治41年(1908)頃

高さが1.6mあったという大極殿の土壇がよくわかる。その壇上に標木のみが建っていました。周囲は一面に水田が広がり、土壇と標木は遠くからでも目立ったことでしょう。東から撮影し西の生駒山を背景としています。

「奈良県名勝写真帖」 奈良県立図書館蔵



## 大極殿土壇上の標木 大正2年(1913)以前

南から撮影し北の奈良山・佐紀の集落を背景としている。奥に見えるのが明治34年、手前が明治43年の標木です。この写真は絵はがきでスタンプの奈良県教育会 歴史地理学術大講演会とあり、これは大正2年開催のため写真はそれ以前。

写真(絵葉書): 奈良県立図書館蔵